

海は人をつなぐ～KIZUNA～（日韓環境交流事業）

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
—	—	20	男12 女8 他に引率教員3

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・日本海側の漂着ゴミやその回収など、海の環境について考える場を設定するとともに、南ソウル大学と同じ課題に取り組んでいる団体や青年との交流を図る。
- ・交流を通して、日韓のそれぞれの文化や歴史について見聞を深めるとともに、次世代への交流の輪を広げる機会とする。

◆期日・期間

2014年6月26日（木）～ 2014年6月28日（土）2泊3日

◆連携機関

鳥取大学地域学部、米子工業高等専門学校

◆参加者分析

- ・南ソウル大学日本語学科の学生を中心とした、日本及び日本語に興味・関心を持つ大学生
- ・交流行事では滞在中の愛知県豊田市立藤岡南中学校2年生150名との交歓を実施した。

◆企画のポイント

期 日	内 容	実施場所など
6月27日（木）	午前：天橋立より 移動 午後：入所式 海洋環境学習①シーカヤック 歴史学習 夜 ミーティング	国立若狭湾青少年自然の家、小浜市泊韓国船救護 記念碑 宿泊：国立若狭湾青少年自然の家
6月28日（金）	午前：JASSO プログラム閉講式 海洋環境学習②カッター 午後：海洋環境学習③漂着物回収、④スノーケリング 夜 : 交流行事	宿泊：天橋立ユースホステル（京都府宮津市）
6月29日（土）	午前：退所式、鳥取県境港市へ移動	

- ・アクティビティの意味づけを理解させてプログラムを組み立てた。

◆運営のポイント

- ・滞在中に所定のアクティビティを実施できるように柔軟に時間配分を行った。
- ・藤岡南中学校には、趣旨を十分理解した上で協力をいただき、交流行事は生徒の自主的が十分に発揮された企画・運営となった。

◆安全管理のポイント

- ・アクティビティの説明を十分理解してもらった上で、安全に配慮しての活動とした。
- ・カッター、シーカヤックでは常に救助艇の伴走体制を、スノーケリングでは陸上監視にも専門職を配置した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	70%	25%	5%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	80%	15%	5%	0%
この事業の運営はどうでしたか	65%	35%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声 (原文ママ)

- ・一生できないかもしれない経験をして、うれしいです。これからもこのような交流をいっぱいしたいです。
- ・たのしかったです。よいけいけんでした。にほんごのじつりょくをのばすことができました。またこのぶろぐらむにさんかしたいです。ありがとうございました。
- ・職員たちが、みんなやさしいし、うみで活動したプログラムもよかったし、思い出を作ったきっかけでした。ありがとうございました。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・平成 23 年度から 3 か年の文部科学省委託を終了して、自主事業として実施した。委託事業で構築できたノウハウや人間関係が大変役立ち、各種変更があったにもかかわらず、スムーズな対応が可能であった。
- ・体験を通じた海の環境学習、交流行事、歴史学習と充実した内容で実施できた。また体験プログラムは韓国側参加者に好評であった。
- ・日本人との交流については、利用団体である豊田市立藤岡南中学校 2 年生 (150 名) との交流を実施することができた。該当校は韓国との交流に力を入れていることもあって、大変和やかなムードで時間を過ごすことができた。韓国側、日本側双方の参加者に満足を得られた。
- ・日韓の国際関係が憂慮される時期での実施であったが、草の根レベルでは全く影響がなく、「海は人をつなぐ」の趣旨を体現することができたと考える。

(2) 課題

- ・鳥取大学の実施する JASSO プログラムから連続して実施したため、日程確定後の日本人参加者の一般募集に支障をきたした。実施曜日、規模、内容から、日本人公募参加者とのマッチングが難しい。

5. 活動の様子



全体写真



海洋環境学習①(シーカヤック)



歴史学習



海洋環境学習②(カッター)



海洋環境学習②(カッター)



海洋環境学習③(漂着物回収)



海洋環境学習③(漂着物回収)



交流行事



交流行事